

WAKUWAKU通信

Nov.2019
Vol.6



ほんちょこ食堂引っ越ししました

池袋本町小学校のとなりにオープンした特別養護老人ホーム
「池袋ほんちょうの郷」のコミュニティスペースで開催することになりました。

第2・第4火曜 17:30～19:00



特定非営利活動法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク

発行日:2019年 11月 発行者:特定非営利活動法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク 〒171-0014 東京都豊島区池袋三丁目52番21号

WEB:<http://toshimawakuwaku.com> TEL:090-3519-3745 Mail:info@toshimawakuwaku.com

入学にともなう服装や学用品を買えない子ども達に、 返済不要の「WAKUWAKU入学応援給付金」を届けたい!!

豊島子どもWAKUWAKUネットワークでは、様々な子どものための居場所があり、約一万人以上もの子どもや親と出会いがあります。その中には、せっかく進学するという状況の中で、楽しく学校生活を向かえる前にさまざまな事情で苦しい思いをされている家庭の子どももたくさんいます。



このような進学する小学・中学・高校生の家庭(豊島区内の60世帯)へ、給付金を渡す「WAKUWAKU入学応援給付金」事業を今年度も行います。

この事業は、2016年のプレスタートを経て2017年～2018年に実施しました。2017年・2018年の2年間で110世帯へ給付金支援を実施しました。(小学校入学家庭が20・高校進学家庭が90。申請全体数は120家庭)

そのうちWAKUWAKUに初めてつながった方は90家庭、以前からつながりのあった家庭が20家庭。ご相談につながった方の80家庭が母子・父子世帯であり、また1割の家庭で両親のどちらかが病気・障がいをお持ちでした。そして、新しくつながった家庭のうち半数以上が、その後の継続支援につながりました。

この「給付金」の原資は、私達の事業に共感してくださっていたある企業に協賛をいただいたものでした。しかし、これは最初から2年間のお約束でした。そのため、2019年度については、このままだと給付金が実施できない状況です。

このような現状を前にして、一度は入学給付金継続を諦めることも検討しましたが、実際にWAKUWAKUの元へ訪れる子どもや親の声を丁寧に聞けば、直接の現金給付を続けてほしいという声がたくさん届きました。

そこで今回は、広く子どもの貧困の解消に関心のある市民みんなの力を持ち寄って、あらためて「WAKUWAKU入学応援給付金」を拡大し、実施できればと考えました。

みんなの力を持ち寄って200万円集めることができれば、
困窮状態にある60世帯に入学応援給付金を届けることが出来ます。

それぞれに、1万円を20家庭に給付予定(小学校・中学校)、
4万円を40家庭に給付予定(高校)を直接会って、お渡しします。そして、単純に「お金を渡す」だけではない、包括的な支援につながります。

ご支援の方法

* WAKUWAKUの特設ページからクレジットカードで
<https://toshimawakuwaku.com/nyugakuouen2019>



* クラウドファンディングサイトgoodmorningから
<https://camp-fire.jp/projects/view/195806>
《クレジットカード、コンビニ払い、銀行振込、キャリア決済が可能》



* 直接口座へ振込：郵便振替：00170-5-728808
加入者名：豊島子どもWAKUWAKUネットワーク

ちょっとした「おせっかい」で、子ども達を笑顔を贈るアクションに、あなたも参加しませんか？

どうか「WAKUWAKU入学応援給付金」を贈るプロジェクトに、みなさんのお力をお貸し下さい！

特別対談：湯浅誠×栗林知絵子「地域の中でお金を集め、贈る。民と公の二者択一を越えて」

今回は、こども食堂の啓発・発展を中心に、子どもの貧困問題の解消へ取り組んでいる湯浅誠さん(社会活動家。東京大学先端科学技術研究センター特任教授。全国こども食堂支援センター・むすびえ理事長)をお迎えし、WAKUWAKUネットワーク理事長・栗林知絵子と対談していただきました。

—今回の「WAKUWAKU入学応援給付金」について最初に伺った時、どのようにお感じになりましたか？

湯浅さん：素晴らしい取り組みだと思います。一般的には、家族ではない人たちに手を差し伸べることはすごく勇気のいることだと考えます。自分も、誰もが家族の壁を乗り越えて、地域に住む子どもについて「我がこと」として考えてくれたらと思っているので。

—こういった取り組みは、NPOのような民間で実施するのではなく、あくまで公的な枠組みでおこなうべきだという意見もあります。湯浅さんご自身は、「全国こども食堂支援センター・むすびえ」の活動などで積極的に民間企業との協働に取り組んでおられるように伺えるのですが、この社会問題解決の主体を「民間」あるいは「公的」どちらに置くのかについてお考えはありますか？



湯浅さん:そこは二者択一ではないんですね。公的なサービスは「全員」のお金を使うので、どれだけ一部の人がある社会課題を「これを解決するためにお金を使うべきだ」と訴えても、より多くの人の賛同を得られない限り、執行機関たる公的機関は動けない。だからこそ、多くの人の納得を得るために企業を含む民間へ広く呼び掛け、支援の裾野を広げることが必要です。そのことが、多くの人の賛同を得ることにつながり、ひいては公的機関がお金を出しやすい環境に繋がっていくのではないかと考えています。



栗林:私も豊島区を中心に活動をしていて、地元の中小企業の方にご支援いただき、また意識的に巻き込むようにしています。それらの社長さんとお話していると、やはり自分たちの町を自分たちで良くしたいという強い思いを感じます。

湯浅さん:こども食堂はそういった地元の企業や、それこそ事業者としての農家やお寺など、一般に中小零細ともいわれる企業が積極的に運営を支援しているところが多いです。

一方で、大企業となると逆にそれが難しいんですね。特定のこども食堂を支援すると「どうしてあそこは組むのに、こちらとは組まないのか」と社内で聞かれてしまう。だから、そういった時のカウンターパートを務めることが「むすびえ」の役割のひとつです。直近ではカゴメ株式会社さんと全国のこども食堂へ野菜ジュースを寄付するキャンペーンをおこないましたが、さまざまなアクターがさまざまなやりやすい形で地域課題に取り組むことが、世間一般の理解を広げていくことになるのだと思います。

そこは事業規模の大小ではないんですね。とはいえ、企業協働は地域の中小企業の方が圧倒的に進んでいると思います。

(むすびえキャンペーンURL:<https://musubie.org/news/1260>)

栗林:私たちがこども食堂をスタートした当時も、区役所など行政の方は見学に来ましたが、公平性に欠けるし力になれないと言われました。それは当然の理屈だと思いますし、だからこそ地域住民や地元企業などを巻き込みながら民間の力でやってきました。やってきた中でこども食堂は全国に増え、それを支援する公的なメニューもだんだん増えてきて、現在は東京都が率先してこども食堂への補助金制度を作るなど、社会が民間の力で変化していく過程を実感しています。

■社会課題に関わるチケットとして

——困っている世帯へ直接お渡しすること以上に、集めること自体で地域を繋ごうと考える「WAKUWAKU応援給付金」へ改めてエールをいただけませんか？

湯浅さん:「WAKUWAKU応援給付金」については素晴らしい取り組みで、注文すべきことはありません。頑張ってください。自分も寄付します。

栗林:はい、応援してください(笑) ※あとでご寄付いただきました。

湯浅:今回は地域を含め一般の方を中心に集めようとしているようですが、たとえば企業も巻き込んで今後広げようとするなら、「マッチャー」を獲得してマッチング寄付の形を組んだらいいと思います。たとえば自分達で100万集めてみせるから、企業の皆さんも100万集めて寄付してね、というような。そういった「あんたたちががんばるなら俺たちも頑張る」といった仲間作りというのはありだなと考えています。



栗林:今回の給付金にご支援いただいた方にいわれたのですが、こども食堂などの現場の活動には参加できないけれど、困ってるなら金銭の形で応援しよう。それは地域の問題を考える機会に参加するチケットを買うようなものだね、とおっしゃられたんです。

チケットを持つ人が多くなればなるほど、豊島区は困っている子どもたちのことを応援している街なのだ、ということになる。

子ども食堂だって、「場を提供する人」「作る人」「食材提供する人」「寄付する人」がいる。結局、街全体でみんなが参加する活動になりつつあると思うんです。

今回の「WAKUWAKU応援給付金」のプロジェクトを成功させた上で、給付金のみならず「地域の中でお金がない」という状況について、もっと積極的な形で解決する方法を考えていきたいです。複数の立場や文化へその課題をちゃんと伝えて、みんなの力で『地域でこの子を大切に育てる』という分かりやすい形を作っていくことに繋がっていききたいと思います。

(湯浅さんとの対談記事全文はWAKUWAKUネットワークのサイトに掲載しています)

WAKUWAKU最近の出来事

ご支援ありがとうございます!!

「ウォータースライダー」(8月3日 開催)

池袋本町プレーパークにて毎年恒例のウォータースライダーを開催しました。

協力:東京豊島ライオンズクラブ

「日英国際交流事業 To See You, At Last プロジェクト」(6月6日～8月12日まで複数日活動)

これまで演劇経験のほとんどない日本とイギリスの若者たちが、演劇の手法を借りて自分たちの身体と言葉で紡いでいき、お互いの創作プロセスを共有しながら、最後にはこの2つのグループが日本で出会い、一つの作品を作り発表しました。

主催:(公財)可児市文化芸術振興財団、LEEDS PLAYHOUSE リーズ・プレイハウス

共催:あうるすぽっと[(公財)としま未来文化財団]

協力:NPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク

「飛び出せ都会!!自然いっぱい山に行こう」(8月21日～23日)

毎年恒例の大鹿村での合宿です。今年も都会では味わえない自然を堪能しました。 協力:東京神宮ロータリークラブ・アサヒ飲料(株)

「みちあそび」イベント(9月8日)

「へいわ通り商店街」の感謝祭で「みちあそび」イベントを開催しました。

「フィリピン子ども食堂」(10月6日)

住友ゴム工業株式会社の助成金と、多文化としまネットワークの協力、そしてフィリピン人4人、フィリピンにルーツを持つ子ども5人、子ども7人、おとな25人、合計44人が食を通じた有意義な交流をもちました。

協力:多文化としまネットワーク 助成:住友ゴム工業株式会社

後援:豊島区

「多文化共生の視点から考える豊島区の防災まちづくり」(10月24日)

お家の隣または町会に、外国にルーツを持つ家族が暮らしています。災害が発生したときに、外国にルーツを持つご近所さんとのように情報を共有し、助け合えるコミュニティを創ればよいのか?を共に考えました。

共催:豊島区

協力:としま防災女子ネットワークと多文化としまネットワーク



日英国際交流事業
To See You, At Last プロジェクト



みちあそび



フィリピン子ども食堂

寄附・賛助会員でのご支援よろしくお願ひします。

「ゆうちょ銀行からお振込の場合」

【口座番号】00170-5-728808 【加入者名】豊島子どもWAKUWAKUネットワーク

「ゆうちょ銀行以外からお振込の場合」

【店名】〇一八(読み ゼロイチハチ) 【店番】018

【預金種目】普通預金 【口座番号】5639629

ご寄附・賛助会員でお振込みされた方は、メーリングリストに加入致します。

ご希望のかたは、QRコードまたは、<http://toshimawakuwaku.com/kihusanzyo>よりご確認ください。



クレジットカードでのご寄附、賛助会員費のお支払いも可能です。今回のみのご寄附から月単位での継続したものまでご利用いただくことが可能です。詳細は、WAKUWAKUのサイトまたは、上記QRコードよりご確認ください。今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。